

〔論 説〕

日中のリベラルアーツにおけるグローバル教育

—千葉商大と上海立信の比較を中心に—

施 敏

はじめに

どの国にとっても、教育は立国の根本である。アメリカの繁栄は世界一優れた大学を持つことによって、各国の優秀な人材が集まったからという認識が共有されている。日本も中国もアメリカと同じように、教育の大切さが重視されている。日本では『頭脳立国』論が提起されているが、中国でも、『科教興国』という立国論が国策として提起されている。

『教育』とは何か？中国西漢の古書『説文解字』によると、『教』とは上のやることをまねさせることであり、『育』とは子供を導いて善行を行わせることである。

21世紀の大学教育において、どのような教育内容を設定するかは、現在人々が探究している真最中の状態にある。本文は教養（リベラルアーツ）と国際化（グローバル化）の視点（角度）からいくつか検討を行う。そして、同じ1928年に日中両国の私立商科大学として発足した千葉商科大学と上海立信会計金融学院を例に、日中両国の大学教育を比較してみる。

本文は両大学の協力関係を結んで20周年の記念とする。

・教養（リベラルアーツ）は学生の『人格形成』という大学教育の根本である

時代の進化につれて、大学教育の方針及びカリキュラムの内容も社会のニーズに合わせて変化してきた。現在のリベラルアーツ教育は欧米諸国やアジアの大学（日本・中国を含む）の中で新たな潮流になった。

リベラルアーツ (Liberal Arts) の源流は、古代ギリシャと古代ローマ時代にさかのぼる。これは西洋における古典的教養科目であり、その中心内容は自由七科とも言われる。まず古代ギリシャ時代の三学論理学、文法学、修辞学と古代ローマ時代の四科目算術、天文学、幾何学、音楽から成る。リベラルアーツのリベラル (Liberal) という単語の意味は、自由民 (Free person) であること。奴隷と外邦人ではないこと。当時奴隷制を中心とした古代ギリシャや古代ローマで、自由人 (公民) として生きて行くために必要な素養とされたのである。このリベラルアーツは日本では教養と訳されることが多い。現在では一般的な教養科目として考えられていて、特に大学で教えられる種々の社会科学系の科目：言語、哲学、文学、歴史学、美術学など幅広い科目を含む。もちろん、現代人はすべて自由民であるから、みんなこの庶民 (社会人) の基礎教養を発達させると考えられる^(注1)。

古代ギリシャと古代ローマの思想家たちは教育や知識の伝授を重視するだけでなく、独立した人格を育てることも必要であると考えられていた。しかもこの『七芸』(七科)は知識と精神や心との繋がりを表し、知恵の柱とも見られ、他の専門技能(科目)を学ぶ大

事な基礎とされる。

古代ギリシャは西洋社会に巨大な影響を与えたが、リベラルアーツ教育は挫折を繰り返した。ローマ帝国の崩壊によって、キリスト教は古代ギリシャの文化を恨み、欧州社会は宗教至上の暗い時代に入った。14世紀になり、イタリアが『文芸復興』(ルネッサンス)を起こし、ようやく人間を支配する神の縛りから離れられて、リベラルアーツ教育は徐々に復興された。リベラルアーツ教育はヨーロッパからアメリカへ伝播され、自由民(公民)の価値観に相応しく心身にも栄養を与えられる人文教育が実施された。

西洋と比較すると、東洋社会はそれほど大きな波はなかった。中国を例とすると、古代中国は宗教立国ではなく、儒学立国を基本としていたため、『四書五経』を中核とした東洋式(型)リベラルアーツ教育が盛んだった。特に、598年に創設された『科挙試験』制度は廃棄された1905年まで、儒学と科挙が一体となった中国古来のリベラルアーツ教育観として実際に1300年間続いた。儒学の中核、孔子の教育観は有名な『修身・齐家・治国平天下』(礼記・大学)に示されているが、『学而優則仕』(論語)も、孔子の提唱するところであった。『科挙試験』は世界最古の能力に基づく公務員選抜制度であり、人類史上最も重要な制度の発明の一つとされている^(注2)。

このような人文教育は範囲が非常に広いが、実践や音楽などの内容が欠けていた。これはあくまでも『リーダー(エリート)養成』を重視する教育スタイルであった。

日本の大学は676年に『大学寮』が創立されたのに始まり、平安時代の寺院教育、鎌倉時代の武士教育、戦国時代の伝導教育、江戸時代の藩校と塾など儒学の影響を受けた。明治から昭和初期にできた旧制高等学校の多くも、東洋式のリベラルアーツの教育伝統を継承していた。

これから、同じ1928年に私立大学として発足した日本の千葉商科大学と中国の上海立信会計金融学院を例に、日中両国の大学のリベラルアーツ教育などを比較してみよう。

昭和3年、『昭和の教育者』と称された文学博士遠藤隆吉先生が千葉商科大学の前身である巢鴨高等商業学校を創立した。今は商経学部、政策情報学部、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部と大学院(商学研究科修士課程、会計ファナンス研究科専門職修士課程と政策研究科博士課程の3コース)を設けている『社会科学の総合大学』となっている^(注14)。

1928年、『中国近代会計の父』と呼ばれている経済学博士の潘序倫先生が上海立信会計金融学院の前身である立信会計高等専科学校を創立した。2016年、上海立信会計学院と上海金融学院が合併され、今は会計学部、金融学部、工商管理学部、国際経済貿易学部、財税と公共管理学部、統計と数学学部、情報管理学部、外国語学部、保険学部、法学部、金融科学技術学部、人文藝術学部、体育と健康学部、序倫書院(伝統教育学部)と大学院(監査研究科専門職修士課程)、計14学部、33専攻及び中国会計博物館、貨幣博物館を設けている。(キャンパス三つ、在学生2万人、教職員1500人以上)^(注15)

潘序倫博士が創立した『立信学園』の物語は、1985年に日本公認会計士協会機関誌『会計ジャーナル』(1号~11号)に連載された。隈井要氏の著書『中国の会計(燎原書店1987年)』にも、中国会計界の泰斗として、潘序倫博士の事跡が紹介されている。

1920年代の世界は、イギリス産業革命以降、重商主義が盛んだった。欧米諸国にとって、産業も教育も優勢的な環境の中、日中両国の大学として、どうやって欧米諸国の大学

からの挑戦に対応すべきか？教育の内容（カリキュラム）においては、どのような科目を導入すれば時代の変化や社会の要請に応えられるか？守るべき東方社会の価値観のボトムラインはどこか？大学教育の根本的な役割は何か？すなわち、東方の古典的なりベラルアーツ教育と欧米の現代大学教育におけるリベラルアーツ教育に対して、どうすれば新たな統合が可能になるか？日本の遠藤先生と中国の潘先生が同時期に見極められた。

大学にとって、最も大切な役割は合格公民を育成することである。もしも大学教育が失敗したら、国や社会に対して最大のリスク問題を起こすことになりかねない。第一、人として。学生には人として正しい生き方を教える。第二、学業を修める。具体的な専門知識を伝える。人の素質を養うことは技能の学習より遥かに重要である。

千葉学園の創立者遠藤隆吉先生は、中国の古典哲学と東方倫理学に精通した集大成者と呼ばれていた。遠藤先生は大学時代が学生の人格を形成する時期であると提起し、人格と修養を形成させるため『軟教育』という教育方法を使うべきだと主張した。そして『人格第一』の中身は道徳と強調された。従って千葉商科大学の建学理念は高い倫理観を持ち、幅広い視野からものごとを正しく判断出来る治道家を育成することである。CUC 建学 90 周年のスローガン『高德の実業人を創る』も建学理念と一貫して継承された。

一方、上海立信会計学院の創立者潘序倫先生は、1923 年アメリカのハーバード大学ビジネススクール経営学修士（MBA）、1924 年コロンビア大学の経済学博士号（Ph.D）を取得して帰国した後、西洋の複式簿記を中国で普及した人物である。潘先生は中国の儒学教育の核心が『徳育』であることを認識し、『立信会計学院』の創設に当たり、『論語』に書かれている『民无信不立（民は信無くば立たず）』から『立信』の二文字をとって校名とした。公認会計士という職業が信用によって成り立つものだと考えていたからである。更に、『信を以て志を立て、信を以て身を守り、信を以て事に当たり、信を以て人に接す。信を忘れることなくば、事必ず成る』という校訓を制定した。建学理念と伝統を守ってきた上海立信会計金融学院は現在『誠信教育体系（信用重視教育システム）』や『上海大学誠信文化育人文化研究センター』を設けている。近年中国高等教育学会に付属している『中国大学誠信文化育人連盟』の理事長大学に選ばれた。立信会計出版社も『誠信教育』関係の書籍をたくさん出版した。『誠信（信用）』は立信会計金融学院のイメージとして中国社会に認められ、『立信現象』と呼ばれている。

『立信会計学院』（『信用と会計』を統合した）が誕生した時代に、日本では渋沢栄一さん（2020 年新一万円札の顔になる人物）が『論語と算盤』という本を著作した。渋沢さんは約 470 社の企業、団体、大学の創立と発展に貢献した実業家である。渋沢さんは日本型資本主義と近代化の父と呼ばれ、『利益と道徳を調和させるべきだ』と主張した。『論語』は中国の古典思想、特に道徳上の経典である。算盤は貨殖の道具である。当時の世間に、倫理観と道徳観を忘れ、ひたすら金儲けに走る人々の姿を黙って見ていらなかった渋沢栄一さんは道徳と経済を融合することは正しいビジネスの道であることを強調した^(注9)。

遠藤隆吉先生、潘序倫先生、渋沢栄一さん、この三人の言動は東方社会では『義』を重視していたことが伝わる。当時、教育を行うためにまず『義塾』を設立したのも、『論語』（『君子は義を重んずる』）に従っていたからである。

現在の千葉商科大学と上海立信会計金融学院は従来の伝統を守り、一般教養科目を多く開設した。今年千葉商科大学は新しく基盤教育機構を設立した。5 年前誕生した国際教養

学部は『日本を知る』、『アジアを知る』、『世界を知る』との三段階で教育目標を設定し、従来の常識を打ち破る幅広い教養科目を提供している。一方、上海立信会計金融学院は『誠信教育』に関わる公共必修科目と一般教養科目を開設したと同時に、他分野の六つの近隣大学（松江大学城にある）と協議を結び、教養科目などの単位交換制度も実行している。

両大学は学部、学科の枠にとらわれず学生たちに自分自身の興味・関心を持つ分野のリベラルアーツ科目の学びを深めることに励んでいる。今後、若者の可能性を更に広げられるカリキュラムを提供することは両大学の課題になるだろう。

・これからの時代は大学の特徴（色）と専門教育の実学性で勝負する

十数年前、当時の副総理黄菊氏（前上海市市長）は上海立信会計金融学院の視察で、次のように述べた。“上海市の六十所余りの大学の中、上海立信会計金融学院、華東政法大学、上海音楽学院、この三つは最も特徴が鮮明な大学である。”『今日頭条（2019.9.4）』によると、中国で最も就職に強い学院大学は以下の五つ、中国外交学院（外交部直属）、北京協和医学院（衛健委に直属）、国際関係学院（国家安全部に直属）、上海立信会計金融学院（元財政部、中国人民銀行に直属）、中国青年政治学院（共青团中央に直属）である。このように社会的な高い評価が得られたのは大学の歴史、建学理念、教育特徴などの核心とした部分が社会に認められたからである。上海立信会計金融学院の伝統教育は『実学重視』を核心とした教育方針で行われてきた。今は『中国教育部就職最優秀モデル大学』に選ばれた。

一方、千葉商科大学も創立者遠藤隆吉先生が提唱した『有用の学術』（社会に役立つ実業の学問＝『実学』）の教育理念に従い、以来90年間、その『実学重視』の伝統を引き継いできた。

今の時代は知識や技能が速いスピードで更新されているため、大学がより高度なレベルで実社会のニーズに応えようとする局面に入っている。千葉商科大学と上海立信会計金融学院は百年に向けて、グローバル化社会で、改めて『自己評価』を行い、『自己優勢』を再認識した上で、挑戦しながらチャンスをつかみ、進化しなければならない。両大学は百年に向かって、歩み始めた。

まず、両大学は百年を目指す目標とビジョンをはっきりと定めた。

千葉商科大学の vision100：①『実学の総合大学』となる②日本一、会社と繋がる大学になる③アジアの発展を中核で支える人材を送り出せる大学となる^(注10)。

上海立信会計金融学院の vision100：①応用型（実際に役に立つ）のレベルの高い財経大学となる②中国に重要な影響力を持つ大学となる③国際的に一定の知名度がある大学となる^(注11)。

そして、時代の変化に合わせ、『実学教育』を行う大学の構成を設定した。

千葉商科大学の商経学部は伝統的な看板学部であるが、情報化社会の発展につれ、千葉商科大学は2000年に政策情報学部を開設した。その後、ポスト工業化社会になったため、2008年にサービス創造学部を開設した。更に、少子高齢化社会になった2014年に人間社会学部を設立し、2015年にグローバル社会が求める国際教養学部も誕生した。

一方、近年上海立信会計金融学院の会計学部と金融学部は看板学部として、中国教育部に国家レベル重点モデル学部と指定された。上海立信会計金融学院の14学部と33専攻は実社会に役に立つ応用性の強い教育を行ってきたが、最も躍動している中国経済の中心で

ある長江デルタに位置している上海に貢献するため、大学内に立信経済研究院、上海科技金融研究院、上海浦東研究院、上海金融發展研究センター、“一帯一路”研究センターなど研究機関を設けた。研究成果は中央政府や上海市政府に提供し、高い評価を得られた。特に《上海国際金融センター青書》、《中国経済運営リスク指数》は中国では大きな影響力を持っている。

また、専門性の高い科目と実践科目に注力している。

千葉商科大学と上海立信会計金融学院のカリキュラムは大きく三つの講堂で構成されている。第一講堂は、教養科目と専門科目など核心能力と基本能力を身につける教室である。第二講堂は、ゼミ研究を行い、専門的な研究能力を身につける場所である。第三講堂は、社会実践・資格学習を行い、実務経験や能力を身につけるところである。

両大学はそれぞれの教育目標を果たしているが、これからの大学教育は専門教養をさらに実践化して、学んだことを確実に社会で生かせるような実学重視の方針を取らなければならない。

『実学重視』のケースとして上海立信会計金融学院の『立信インターンシップ基地』を紹介しよう。

上海立信会計金融学院、上海証券取引所、立信監査法人（注）三者連合で『立信会計産・学・研基地』を設立し、中国教育部に『中国大学の産学研最優秀モデル』と選出された。実際 2008 年～2015 年、上海立信会計金融学院の在学学生 4500 名が立信監査法人の本社にある『立信実習基地』にてインターンシップに参加した。学生たちはインターンシップなどを通じた実務経験を高めて、卒業後の進路と繋がった。そして、上海立信会計金融学院は『双師制』（担当科目の専門資格を持つ法律専門の教員が弁護士資格、会計専門の教員が公認会計士など）を実施し、教員に理論と実践を結びつかせ、社会のニーズに対して、認識や研究を深めさせている。上海立信会計金融学院の専門家と立信監査法人の実務家が共同開発した『企業合併システム』、共同編集した『監査ケース』などの研究成果はベストセラーになった。

上海立信会計金融学院は『産・学・研基地管理センター』（表 1）を設置し、政府機関 30 所以上、企業 200 社以上と協定を結び、毎年四年生 4000 人ほどを派遣し、インターンシップに参加させている。

（注：立信会計士事務所、1927 年開設、中国最大の監査法人、正社員 2 万人以上、内公認会計士 2000 人、税理士 300 人以上。）

・国際化教育はグローバル社会に通用する教養の新定義である

中国政府は大学が国を現代化させる役割を持つエンジンであると考えていた。中国では経済の発展につれ、大学の規模を拡大し、数も増え続けている。1978 年の中国の大学数は 598 校、在学学生 85.6 万人、新卒は 16.5 万人であったが、2019 年の大学数は 2956 校（5 倍近く）、在学学生 2831.03 万人（30 倍以上）、新卒 834 万人（50 倍）に増えた。もちろん、実際に、大学間の競争も激しくなった。大学の多様化や国際化によって、競争力が測られるため、中国の大学は在学学生を海外大学へ派遣したり、海外留学生を受け入れたりして国際化を進めた。現在毎年中国の留学生（派遣 60 万人、受け入れ 49.2 万人）の規模は合計 109.2 万人になった^(注12)。

産・学・研基地管理センター (表1)

上海立信会計金融学院「産学研基地 (インターンシップ)」一覧表 (一部)		
学内に付属する学部	産学研実習基地 (インターンシップ) の名称	学外の参加企業
会計学院	立信会計産学研基地 (総合実習)	立信監査法人, 上海証券取引所
財税学院	立信税協産学研示範基地	立信税理士事務所, 上海税理士協会
法学院	自由貿易区法庭校外実習基地	上海市浦東新区自由貿易区法庭
金融学院	立信海東方金融工程実験中心	銀河金融グループ, 東海先物(株), 東海資本管理(株)
保険学院	中国人民保険公司財産險上海支店産学研基地	中国人民保険公司“人保財産險”上海支店
国際経貿学院	立信 GE 応用型人材養成基地	米国ゼネラル・エレクトリック会社 (GE) グローバル運営・亚太本部 人事部会計部
工商管理学院	立信統一 スーパー商業産学研校外実践基地	統一 (グループ) スーパー商業
外国語学院	立信上海「外服対外サービス」産学融合実践基地	上海対外サービス (服務) 公司 (グループ)
科技金融学院	立信金融科技専門人材産学融合養成基地	慧科教育科技集団, 中国建設銀行, 中国金融科技教育と応用創新連盟

2019年の日本の大学数は782校〔平成30年度学校基本調査〕(文部科学省)であるが、少子高齢化が進んでいる中、大学は国内市場の縮小や国際競争の激化などを見据えている産業界からの要請に答えるため、真のグローバル人材を育成しなければならない。これからの時代は、創造的な未来を切り開き、世界で活躍できる人材が必要とされる。

大学にとって国際化とは、国際的な環境(異文化に触れる)を提供し、開放的なカリキュラム(異文化を理解させる)で教育を行うことではないか?

“国際化”と聞くと“開放・進歩・変化・イノベーション”などを想像する。確かに大学にとって、国際化は学部を新設する以外に急成長させる方法を見つけるのが難しいと思われる。それならば、現規模での発展は国際化を強めるしかない。すなわち、国際化は大学にとって発展して行くと同時に、新しい挑戦のチャンスでもある。大学はグローバル化環境の中で、勝ち残るために、改めて自分の特徴を策定し、より高い競争力を強め、進化しなければならない。

現在千葉商科大学の海外協定校は33校、上海立信会計金融学院も100校以上の海外大学や研究機関と交流している。しかし、大学の経営戦略の一つとして、財源を生み出せる協同プログラムが開発できるパートナーを見つけることは実に難しい。

1928年千葉商科大学と上海立信会計金融学院は海を挟んで双子のように誕生した。両大学は『軟教育』(道徳)、『硬教育』(実学)を重視し、沢山の商材を育成し、日中両国の発展に大きな役割を果たしていた。2000年政策情報学部を設立するのを契機に両大学は協定を交わした。以来20年間、両大学の理事長、学長を始め、教職員、学生の間で様々な形式による交流を展開した。両大学は2019年に設立90周年を迎えた。記念式典では80周年と同じようにお互いに相手大学の学長を招き、海外大学の代表として『記念講演』を行った。この20年間、両大学が協同で開拓したプログラムは長い日月を経て、各分野

で両大学の国際化に貢献している。そして、それぞれのプログラムに参加した卒業生達も日中両国でグローバル人材として大活躍している。

2000年1月、上海立信会計学院のキャンパスで千葉商科大学が新設した政策情報学部は初めて上海 AO 入試を行った。前例がないため、上海立信会計学院の副学長や学部長らは試験時間中に、受験生の保護者会を開催し、千葉商科大学の信用性などについて説明し、CUC の連帯保証人となった。両大学の信頼関係はこの上海 AO 入試で強く結ばれた。

2003年、日中両国の発展に相応しい応用型の人材を育成するため 両大学は日中協同コース（上海立信3年+千葉商大2年）を設立した。日中協同コースにおけるカリキュラムの科目の三分の一は千葉商科大学の教員が担当すると定められているため、毎年千葉商科大学は教員を十名以上、上海立信会計金融学院へ派遣した。20年間千葉商科大学の教員が日中協同コースに貢献した。これは中国教育部、上海市教育委員会、上海立信会計金融学院に高く評価された。この努力は協同コースが長年に渡り継続できた大きな要因となった。

2012年以来、千葉商科大学は多彩な国際交流プログラムを開発した。日中協同コース設立10周年を契機に、両大学の学長は上海で交換留学協議書に調印した。交換留学制度（1学期）に参加した最初の8名の学生は、上海立信会計金融学院に派遣された。現地で履修した専門科目の単位は千葉商科大学に認定された。

交換留学制度を実施した経験を重ねて、2014年にダブルディグリープログラム（千葉商科大学3年間+立信会計金融学院留学1年間）が誕生した。1期生4名、2期生4名、それぞれ無事に卒業したが、両大学は常にプログラムの改善について、協議し、より優秀な人材を育成しようと努力している。ダブルディグリープログラム（現在在学参加者35名）は今両大学にとって、最も重要な国際交流プログラムとなった。きっと近い将来両大学の国際教育の成果として注目されるだろう。

両大学の交流プログラム（短期、中期、長期）は以下のように実施している。（表2）

千葉商科大学における国際交流プログラム（学歴・非学歴）は多彩であり、最も関心が集まっている非学歴のプログラムは学長ゼミ GPAC、CUC サマープログラムである。学長ゼミの参加者は大学の代表として、毎年夏休みに他のアジアの大学の代表者とグループワークを行い、GPACの大会で発表する。参加者は英語力、コミュニケーション力を含む総合能力を高めることができ、大きく成長し、卒業式では表彰されていた。サマープログラムとは、例年7月に2週間開催するCUCサマーキャンプである。海外協定校の学生とCUCの在學生で合計百五十人以上になった参加者は、講義、企業訪問、異文化体験、都内観光などの活動を通じて、日本文化を学び、友人関係を築くことができた。

2015年、さらに国際化を推し進めるために、CUC国際教養学部が新設された。『世界で働く』、『世界と働く』、『世界をもてなし』と国際人材像を表現する三枚の赤い旗が高揚し始めた。『日本を知る』、『アジアを知る』、『世界を知る』と三段階で構成されたカリキュラムには海外フレッシュマンキャンプ、奄美大島研修、短期海外研修（8週間以上）など国内外の研修プログラムも含まれている。21世紀は留学で学ぶ本質が変化してきたと言われているが、国際教養学部の学生たちは留学を通して、日本を外から見ることの大切さや自分たちの本当の姿などを知ることができたと満足している。完成年度を迎えた国際教養学部は、グローバルな視野を養い、多様性への認識が深められる新しいカリキュラムを

表2

CUC・立信交流プログラム		
プログラム名	実施大学	備考
上海 AO 入試	CUC	2000年～2018年
夏期語学（中国語）研修	CUC	2003年～
日中協同コース	立信	2003年～
交換留学制度（半年）	立信	2006年～
交換留学制度（本科1年）	立信	2009年～
学生プロジェクト（サービス創造学部）	CUC	2009年～
異文化体験ツアー（経貿学部）	立信	2010年～
交換留学制度（半年）	CUC	2012年～
社会实践（日中協同コース）	立信	2012年～
ダブルディグリープログラム	CUC・立信	2014年～
海外短期留学（国際教養学部）	CUC	2015年
大学院（会計ファナンス）準備コース	立信	2016年
共同研究（教員間） （CUC会計ファナンス・立信財税学部）	CUC・立信	2017年～

2020年4月にスタートする予定である。

上海立信会計金融学院の国際化は創立者潘序倫の経歴に深く関わっている。1923年米国のハーバード大学ビジネススクールを卒業した潘先生は、1924年にコロンビア大学の博士号を得た後、「西洋複式簿記」の中国への導入について、中国国内で「複式簿記を導入するか、それとも、中式簿記を改良するか」、大討論を起こした。その結果、「西洋複式簿記」が導入され、1930年代に中国会計界と実務業界にとって、最初のグローバル時代を迎えさせた。この背景で創立された上海立信会計学院は海外留学経験がある教員を招き、欧米の会計と商科科目を導入し、当時最新のビジネス系教育を行った。

今の上海立信会計金融学院は伝統教育を継承すると同時に、国際的な教育にも力を入れている。最も注目されているのは国際協同プログラム（学歴教育）、海外立信キャンパス、国際資格教育、海外インターンシップである。

国際協同プログラムは中国教育部に許可された全国大学統一試験の合格者を対象とした国際プログラムのことである。現在、上海立信会計金融学院には日中協同コース、中丹（デンマーク）協同プログラム、米中協同プログラム、中比（ベルギー）修士プログラムが設けられている。そして、2019年10月、デンマーク商務孔子学院が海外キャンパスとして設立された。

上海立信会計金融学院は伝統的に社会人向けの資格教育を重視し、大いに社会に貢献してきたが、近年グローバル化に合わせて、国際財経学院を新設した。国際財経学院は立地の良い立信上海市内のキャンパスで、国際資格の専門教育（表3）を行っている。USCPAは最も人気のある資格コースであり、合格率は90%以上という高い成果を挙げた。

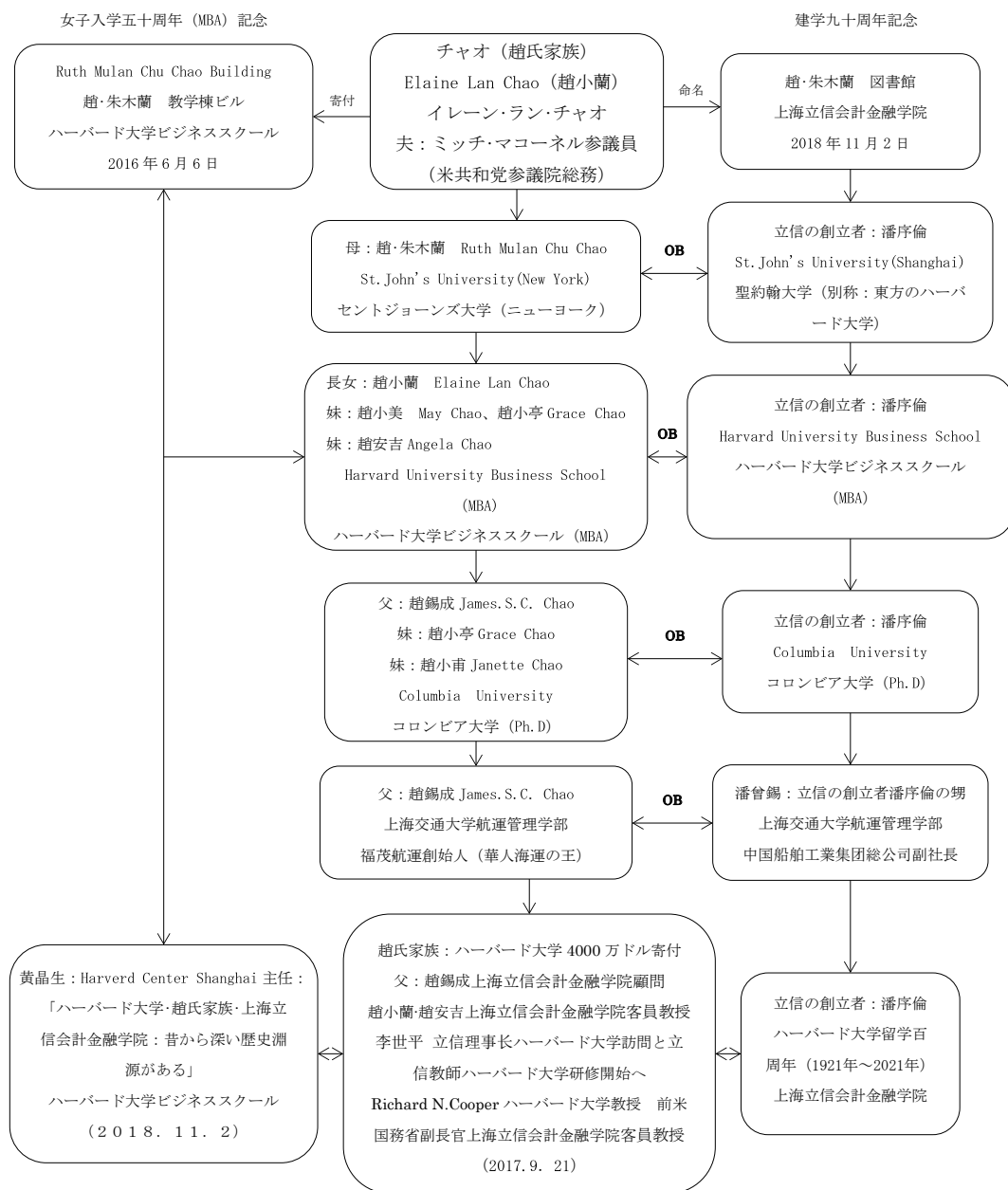
国際資格の専門教育が成功した大きな要因は、パートナーが有力な海外機関だからである。例えば、USCPA のパートナーは米国最大の権威ある AICPA 研修機構—Becker である。そして、上海立信会計金融学院はハンガリーにある中欧文化教育センター基金会と共同で、海外インターンシップ基地も設立した。

上海立信会計金融学院の松江キャンパスには創立者潘序倫先生の名前が書いてある建物がある。2019 年創立 90 周年に、上海立信会計金融学院の浦東キャンパスでアメリカの趙氏家族（2016 年 6 月ハーバード大学に教育ビルを寄付した）^(註16)の寄付により、趙朱木蘭図書館が改造された。趙氏家族の父趙錫成と娘 2 人、コロンビア大学 (Ph.D) OB (立信の創立者潘先生も)、長女趙小蘭 (アメリカ運輸長官) ら娘 4 人がハーバード大学 (MBA) OB (立信創立者潘先生も) である。趙氏家族と潘序倫先生の縁はコロンビア大学やハーバード大学の OB で繋がり、架け橋——潘曾錫 (潘序倫の甥、趙錫成の親友・同級生) の手で強めて、今日、浦東のキャンパスに大学のシンボルとして目に見える形 (図書館) となった。趙氏家族は母趙朱木蘭 (歴史学者) を記念するため、図書館の名前を趙朱木蘭にしたが、立信在学生の三分の二を占める大勢の女子大学生たちにも趙朱木蘭のように素晴らしい女性に成長してほしいという強い希望も込めている。父趙錫成 (90 歳) は上海立信会計金融学院に名誉顧問と招かれた。娘趙小蘭と趙安吉も、客員教授として、講座を開き、上海立信会計金融学院の国際教育に貢献している。2013 年 4 月 13 日、上海立信会計金融学院の松江キャンパスで趙小蘭 (アメリカでアジア系の中国系として、初の労働長官・運輸長官を歴任する) が“中国心、米国情、世界愛”とのテーマで講演した。

ハーバード大学は、上海立信会計金融学院の創立者である潘序倫先生がハーバード大学での留学経験を生かして、中国の会計業界と産業界の経営理念を変えた功績を、高く評価した。ハーバード大学と上海立信会計金融学院の交流は数年前から始まり、立信の理事長も学長もハーバード大学を訪問した。そして、上海立信会計金融学院は若手の教員を定期的にハーバード大学に派遣し、研修を受けさせるほか、在学学生を対象としたハーバード大学大学院へ進学する道も開いた。ハーバード大学の教授 Richard.N.Cooper (米国前国務省副長官) が上海立信会計金融学院の客員教授として、2017 年 9 月 21 日に “The World

表 3

国際財経学院国際資格 研修プログラム (一部)	
略称	国際資格名称及び認定機構
US CPA	米国公認会計士 American Institute of Certified Public Accountants
ACCA	勅許公認会計士 The Association of Chartered Certified Accountants
AIA	国際会計士 Association of International Accountants
CMA	米国公認管理会計士 The Institute of Management Accountants
CFA	勅許金融分析士 Chartered Financial Analyst Institute



趙小蘭 (2019年10月22日令和天皇即位礼の正殿の儀に
アメリカ政府代表・トランプ政権運輸長官) 家族図

Economy Under President Trump” との講演を行い、大歓迎された。学生たちはこのような国際教育によって、視野が広がった。

まとめ：グローバル人材の育成方法と効果

大学国際化の戦略からグローバル人材の育成方法を見ることができる。千葉商科大学と上海立信会計金融学院の『国際化要素』を以下のようにまとめる。

1. 外国人教員を雇用・本学教員を海外に派遣（研修・研究・講義）
2. 外国人留学生を受け入れる・在学生を海外に派遣（短期・長期）する
3. 非学歴短期国際プログラム・長期交換留学（学内・海外）を行う
4. 学歴国際協同コース、ダブルディグリープログラムを実施する
5. 海外インターンシップ基地を設立する
6. 国際資格講座を設ける
7. 海外校友会・OB活動

両大学は以上の国際化教育活動を通して、社会や産業界に求められているグローバル人材像を目指し、優秀な国際人材を育てる。

具体的なグローバル人材像は次のように描かれた。

1. 『海外との社会、文化、価値観の差に興味、関心を持ち、柔軟に対応する姿勢
2. 既成概念にとらわれず、チャレンジ精神を続ける
3. 外国語によるコミュニケーション能力を有する。実行力がある』（注3引用 p 46）

大学は国際化を推し進める努力を通して、教育効果と社会効果（以下）が収められる。

1. 大学の名声、社会的な知名度、認知度、影響力が高まる。
2. 学生は就職活動や長い人生において、グローバル競争力を身に付ける。
3. 教育の質を高め、高校生に魅力を感じさせ、より優秀な受験生を集める。
4. 留学を経験した学生は異文化による刺激を受けて、さらに学習意欲を強め、積極的に高い目標に向かって努力する。

結びに

中国には『三姑六婆』という女性の役目を表現する古い言葉がある。その『六婆』の一人『穩婆』は今の産婆（助産師）に相当する。未来社会へのグローバル人材を育成する点では、大学はまさに産婆役である。（注2引用 p 57）

大学教育は、21世紀の知的挑戦と社会の要請に応じて、“未来からの留学生”という嬰兒を如何に穏やかに取り上げ、それによって、学生たちになるべき現代教養人としての人生の第一歩を踏み出させ、未来社会を確実に発展させる基礎を固めさせるのである。

大学は“未来からの留学生”に道德教育（マインド——軟教育）をしっかりと受けさせ、教養と実学（両足——硬教育）をちゃんと身に付け、広い国際視野（目——賢教育）を持つ真のグローバル人材になれる教育を行い、優れた卒業生を未来社会に送り返す使命がある。

〔参考文献〕

- （注1）麻生川静（2017）「本物の知性を磨く 社会人のリベラルアーツ」禅伝社 P. 16-18
（注2）呉 仲華（1996. 3）「歴史的に見た日中両国の大学教育とその改革」（CUC

View&Vision 創刊号) 千葉商科大学経済研究所

- (注3) 平岡祥孝・宮地晃輔 (2016) 「それでも大学が必要と言われるために」創成社 P. 46
- (注4) 遠藤隆吉 (復刻 1984年) 「硬教育」富山房蔵版
- (注5) 遠藤隆吉 (1941年第九版) 「巢鴨精神」巢鴨学舎出版社
- (注6) 潘 曾錫 (2013年) 「中国現代会計の父—潘序倫先生誕生一百二十周年記念」立信會計出版社
- (注7) 潘 序倫 (1985年1-11月) 「潘序倫回顧録」日本公認会計士協会誌：会計ジャーナル
- (注8) 罗 銀勝 (2017年) 「中国現代会計の父—潘序倫伝」立信會計出版社
- (注9) 渋谷栄一 (2010年) 守屋淳 (現代語訳) 「論語と算盤」築摩書房
- (注10) 内田茂男 (2019年) 「第2期中期経営計画策定にあたり」第2期中期経営計画 2019-2023 学校法人 千葉学園
- (注11) 唐 海燕 (2013年) 「深化改革, 提升内涵」立信校友通讯 110期
- (注12) 中国大陆高等学校列表 <https://zh.m.wikipedia.org/>
- (注13) 楊福家 (2015) 「博雅教育」復旦大学出版社
- (注14) www.cuc.ac.jp
- (注15) www.lixin.edu.cn/
- (注16) The Ruth Mulan Chu Chao Center
(http://https://m.youtube.com/watch?V=fct_TNgdM)
- (注17) 立信举行趙朱木蘭圖書館揭牌儀式 (<http://xww.lixin.edu.cn/yw/jw/73306.htm>)

(2020.1.19 受稿, 2020.3.13 受理)

〔抄 録〕

- はじめに どの国にとっても、教育は立国の根本である。日本では『頭脳立国』論が提起されているが中国でも、『科教興国』を国策としている。21世紀の大学教育において、どのような教育内容を設定するかは、現在人々が探求する真最中の状態にある。
- 目 的 千葉商科大学と上海立信会計金融学院の協力関係を結んで20周年を記念する契機に、100年を目指す両大学の方向性を明確にする。
- 研究方法 文献調査、現地調査、比較研究を行う。
- 内 容 教養（リベラルアーツ）と国際化（グローバル）の視点から、両大学の過去（歴史伝統）を回顧し、現在（現状の姿）をまとめて考察する。両大学が設定した未来像やビジョンを確認する。①教養（リベラルアーツ）は学生の『人格形成』という大学教育の根本である。②これからの時代は大学の特徴と専門教育の実学性で勝負する。③国際化教育はグローバル社会に適用する教養の新定義である。
- 結 論 大学は“未来からの留学生”に道德教育（マインド—軟教育）をしっかりと受けさせ、教養と実学（両足—硬教育）をちゃんと身に付け、広い国際視野（目—賢教育）を持つ真のグローバル人材になれる教育を行い、優れた卒業生を未来社会に送り返す使命がある。